

平成28年5月25日

# プロジェクト報告書

団体名 チーム中越

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. プロジェクト名

企業・行政・災害ボランティアセンターの協働による災害支援体制の構築

## 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

被災時対応検討会の実施を通して、過去の災害の課題や教訓を検証し、行政や災害ボランティアセンター、NPO、企業等が連携・協働して被災者や避難所の支援に当たれるような関係性や支援体制の構築を図ると共に、災害時の課題解決のために今から出来る対策や備えの実施へつなげます。

長岡協働型災害ボランティアセンター勉強会の開催を継続することで、防災ネットワークの維持・拡大を行うと共に、災害ボラセン関係者のスキルアップを図ります。

上記活動の情報発信を通じて、他地域における防災力の向上にも貢献します。

## 3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

### 被災時対応検討会の開催

災害時の対応や備えについて、以下の通り検討を行いました。

第一回:長岡市の避難所運営マニュアルを元に官民連携での避難所の運営支援について検討。第二回:常総市での水害支援の経験を基に長岡市での広域水害発生時の対応や備えについて検討。第三回:高齢者、障がい、アレルギーなどの支援団体や当事者の方々と現状や課題、今後の取組みについて意見交換や検討を実施。

### 長岡協働型災害ボラセン勉強会の開催

「災害時における長岡市との連携を考える」「平成27年9月関東・東北豪雨支援から学ぶ」「災害時の高齢者支援を考える」をテーマに公開型で勉強会を行いました。

上記活動についてHPを通じた情報発信

## 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

被災時対応検討会では、官民で様々なテーマについて検討を行ったことで、具体的な備えや対策につながってきています。例えば、避難所運営では行政を中心とした職員研修や、地域でのワークショップ実施の動きが出てきている他、広域水害時の検討では、行政による情報発信の限界から、民間側サイドによるツイッターでの災害情報の集約や発信のあり方の検討へとつながってきています。

長岡協働型災害ボラセン勉強会は、公開型で様々なテーマで勉強会を行うことで、多様な分野の皆さんとのつながりが生まれてきている等、これら官民連携の取組みの結果、熊本地震では長岡から官民連携の支援チームが派遣されるなど、着実にその成果が出てきています。

#### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

当初予定していた企業連携の検討会は途中で頓挫したものの、本年度も勉強会や検討会を開催させていただいた結果、官民協働の災害支援体制の強化につながりました。特に近年は災害ボラセンを開設するような災害の発生がないにも関わらず、災害支援体制の維持・強化が出来ていることは非常に意味のあることで、他地域における災害支援ネットワークの構築にも寄与できるものと考えています。

今後も災害時の課題を検証し備えにつなげていくと共に、災害支援ネットワークの維持・強化を継続していきます。また、その成果を他地域にも波及させていくことで全国的な防災レベルの向上につなげる他、官民連携による新しい災害支援の形も構築していきます。

#### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

# 災害時の長岡市との連携を考える

災害が発生すると、行政は避難所開設や道路などのインフラの復旧、罹災証明の発行など様々な業務を行わなければならない状況になります。

過去の災害においても災害ボランティアセンターと行政とで連携しながら災害対応に当たってきましたが、私たちも意外と行政の皆さんが災害時にどのような対応に追われ、どんな課題を抱えているのかを理解できていません。

今回の勉強会では、災害時における市の対応について学ぶと共に、今一度、行政と災害ボランティアセンターや地域との連携による災害支援の可能性を、参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

日時:平成27年9月2日(水) 19:00~21:00

場所:長岡震災アーカイブセンターきおくみらい多目的ホール  
長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト2F

## プログラム

### 第一部

長岡市の災害体制・災害対応を学ぶ

講師:長岡市危機管理防災本部

### 第二部

災害時における災害ボランティアセンターと長岡市の連携  
を考える

## 申し込み

事前準備のため氏名、電話番号、所属を明記の上、以下の連絡先までメールもしくはFAXにてお申し込みください。(先着50名)

### 問合せ・連絡先

(公社)中越防災安全推進機構 担当:井上、河内  
〒940-0062長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト2F  
TEL0258-39-5525 FAX0258-39-5526  
Email: team-chuetsu@cosss.jp

真如苑助成事業

## 今後の予定

H27年11月9日(月)(予定) 第7回災害ボラセン勉強会「災害時の高齢者支援を考える」  
H28年2月24日(水)(予定) 第8回災害ボラセン勉強会「災害時の食について考える」

主催:長岡協働型災害ボランティアセンター/チーム中越

# 第6回災害ボランティアセンター勉強会「災害時の長岡市との連携を考える」を開催しました

Tweet



第6回目の長岡協働型ボランティアセンターの勉強会は「災害時の長岡市との連携を考える」をテーマに災害時に長岡市危機管理防災本部の皆様をお招きして開催されました。ボラセンメンバーの他にも安全士会、市議、NPO団体関係者など計30名ほどの方々が集まりました。

今回の勉強会では、災害時における市の対応について学ぶと共に、今一度、行政と災害ボランティアセンターや地域との連携による災害支援の可能性を、参加者の皆さんと一緒に考えました。

まず、長岡市危機管理防災本部より災害時に設置される災害警戒本部や災害対策本部の設置条件や指揮系統等、長岡市内部における組織体制について説明がありました。

その後、災害発生時におけるボランティアとの協働事例として「平成25年7月・8月豪雨」時の乙吉地区への対応状況についての説明を受けました。



## 今回の勉強会で分かった事

- ・ 行政としてもボランティアの持つ高い専門性や住民に近い支援活動に期待している。
- ・ 個人宅においても最低限生活する上で必要な箇所は市の規定に従って公的支援で応急修理は可能。
- ・ 行政には公平性という壁がある。民と行政と一緒に公平性の壁について考えられたのは貴重なケース

## 明らかになった課題

- ・ 関係者がどういったルールでボラセン開設前に情報共有を計るのか不明確
- ・ 行政としてはボランティアに期待できる支援内容の把握が不十分であるため、支援を必要とする現場とのマッチングがうまくいかない事が想定される。

#### 今後すべきこと

- ・発災直後、ボラセン開設前の段階における関係者間の情報共有方法の検討。
- ・行政とボラセンがどの団体が何をできるのかを共有し災害時に支援を依頼しやすい体制を構築する。
- ・現場において行政が対応可能な部分とボランティアが対応すべき部分の明確化

今回の勉強会では乙吉の水害のケースを通して、協働のあり方を再認識する事ができました。

災害時に行政とボランティアが協働するためには、平時よりお互いの性質を理解して役割を明確化しておく事が必要なのと、お互いに相談をし合える横のつながりが大切であると思いました。

今後、今回出た課題や意見について具体的に考える事でより良い協働の形を構築していきたいと思います。